

# 主体的・対話的で深い学び



2020年に発表された新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」がこれからの学びとされています。従来の授業スタイルは、教室で先生の授業を聞き先生に教えてもらう学びがメインでしたが、これからは先生の教えに沿って教科書に向かうだけでなく、自分で積極的に学ぶ姿勢を重視した学習を大切にすることになりました。加古川市では、市内全学校において、「協同的探究学習」の考えに基づく授業づくりを行い、生徒が苦手とする「わかる学力」の育成に向けた授業を工夫しています。本校でも「協同的探究学習」の考えに基づく授業づくりを進めています。学級全体で、生徒の多様な考えや発言から共通点や相違点を見つけ、問題の本質について考え、生徒が主体的に学んでいけるようにしています。ただこの授業は毎時間行うのではなく、単元の中で機会をとらえて実施するものです。先週、1年生の社会科地理の単元の中で実施しました。テーマは、「世界各地で地域的な統合が進んでいるがその利点や問題

点について考え、どのような社会を目指すか考えよう」です。

難しいテーマだと思いませんか？

でも、クラスではたくさんの発表があり、自分の言葉で意見を述べ、それをクラスで共有することができました。「いろいろな国どうして協力して負担を減らせる社会を目指したらよい」とか「協力して問題点を減らしていきたい」とか「足りないところを助け合っていきたい」など…。そのために EU や ASEAN、APEC などがつくられているという本質について考えることができ、現在の社会情勢の見方も深まっていったと思います。

これからも、機会をとらえて実施していきたいと思います。何より、ひとりひとり自分の意見を持つことができたことが素晴らしかったです。



これからの社会は複雑で将来を予測することが困難となるといわれている中で、知識を覚えるだけの学習では、これからの社会に必要な力を身につけることはできません。生徒の皆さん、これからは覚える学習だけでは知識は広がっていきません。主体的・対話的で深い学びを通して、まず自分でしっかりと考え、いろいろな意見を交流し、自分の考えを深めてください。